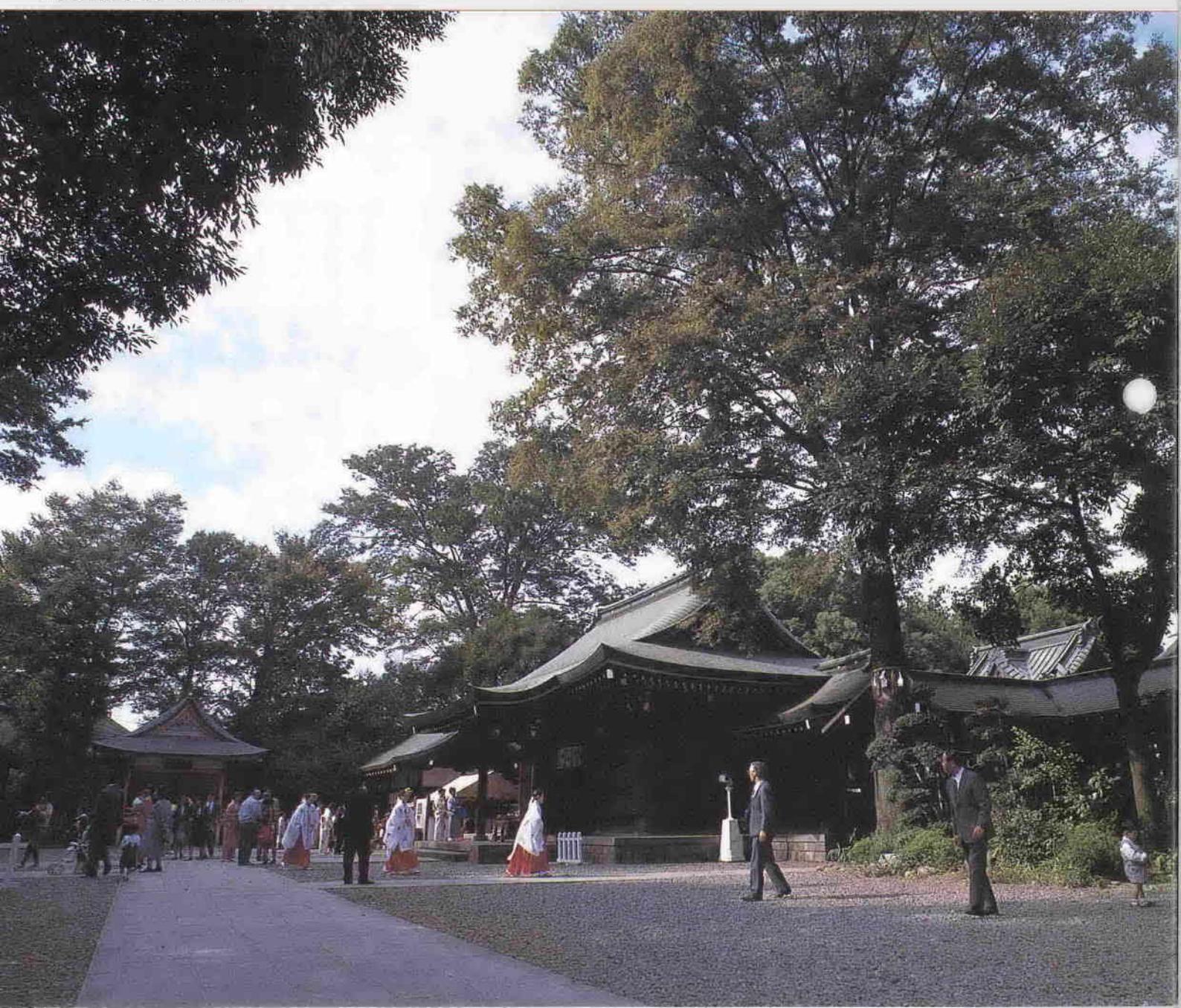


■ 合併40周年を迎えて	2
■ 市長への提案から	5
■ 川越市民号セーラムへ行く	6
■ 市立博物館展示	8
■ 都市計画案の縦覧	11
■ 表通り 裏通り 川越まつり	11

川越景観百選⑩・氷川神社





昭和30年4月1日発行の「市政だより（合併特集号）」



川越市と隣接9村の合併から40周年

まちは、姿を変えつつ

「まち」は、人によつてはぐくまれ、人から愛されることによつて、よりすばらしいものに成長します。今年は、川越市と隣接九村が合併し、ほぼ現在の市域になつてから四十年。これを機会に当時の様子を振り返り、私たちが未来の「まちづくり」を考える一つの参考にしていきます。

川越周辺の様子（一八八九—一九二二）

川越は、古くから城下町として栄え、江戸時代には「小江戸」と呼ばれるほどにぎわい、「伝統と歴史のまち」として発展してきました。

近世以来、新河岸川を利用した舟運により、集められた周辺地域の産物を江戸（東京）へ運び、経済は潤っていました。また、川越の商工業は、近隣の農産物を原材料として成り立つものが多く、周辺地域とは相互に重要なかかわりを持って発展してきました。

このため、明治二十二年（一八八九）の市制・町村制施行によって現在の川越市域には、川越町・仙波村・芳野村・古谷村・南古谷村・高階村・福原村・山田村・田面沢村・名細村・霞ヶ関村・日東村・大田村・植木村が誕生。

いくつものまちがまとまる兆し

商工業都市として早くから栄えた川越市が、その繁栄を維持できなかつた理由の一つは、市域が狭く（合併前の面積は一七・六〇平方キロメートル）、市内に開拓地がないことによるものです。

それは、昭和十四年に行われた田面沢村合併時にも表れ、これを機に隣村合併が検討されましたが、調整がつかず、戦争によつて立ち消えになつてしまつます。

終戦とともに行われた地方自治制度の改革によって市町村は、地方自治の基礎単位として住民の行政需要と国および県からの委任事

務を主体的に処理する立場になりました。それに對して寄せた期待とは異なつていていたからです。

霞ヶ関村・日東村・大田村・植木村が誕生。行政区としては分かれましたが、川越藩時代からの変わらない関係が継続していました。しかし、伝統に培われた川越の経済は、社会情勢の変化によつて勢いを失うようになりました。衰退の危機を感じた川越は、大正十一年（一九二二）十二月一日に県内で初めて市制を施行。「川越市」の発足を活性化の契機として都市の復興を図りました。しかし、城下町特有の地形、交通幹線からはずされたことなどから、後に市制施行した熊谷市（昭和八年市制施行）、川口市（同）、浦和市（昭和九年市制施行）からも遅れをとつてしましました。

まちは、歴史でつながつてゐる

戦争による川越市街の破壊は少なく、復興に有利と見られたにもかかわらず、戦後の川越経済は混迷しました。その理由としては、産業構造において、第一次産業・第三次産業の比重が高く、第二次産業についても軽工業が主要で、小規模な工場が多かつたことなどがあげられます。

敷地が三千平方メートルを超える工場の進出は、昭和三十年以降に増加。工業生産の急速な伸びは、さらにその五年後からのことですから、大合併を前にした川越にとって昭和二十年代は、雌伏の時期でした。

昭和二十八年に「町村合併促進法」が公布され、県内でも町村合併促進運動が進められていきました。しかし、それは、地方自治体の社会的、経済的発展に沿つた区分というよりも行政単位としての区分という觀点が強く、そうした試案は実施されれば、相当な混乱が予想されたといふもの。川越市の市域についても現在とは異なるものになつていていたかもしれません。

町村合併促進法は、各市町村の合併を行政的に推進していましたが、県内のほかの郡域に比べて入間郡域における合併は遅っていました。それは、弱小町村が自治能力を得るこ

「山田村・芳野村」「南古谷村・古谷村」「福原村・大東村」「霞ヶ関村・名細村」をそれぞれ合併して四ブロックにする。
入間地方事務所案①

「山田村・芳野村」「南古谷村・古谷村」「福原村・大東村」「霞ヶ関村・名細村・古谷村」を

村・南古谷村」「福原村・高階村・福岡村（現上福岡市）」「大東村・霞ヶ関村」をそれぞれ合併して三ブロックにする。
川越市案

川越市・山田村・芳野村・名細村・古谷村・南古谷村・福原村・高階村・福岡村・大東村・霞ヶ関村・大井村（現入間郡大井町）を合併する。

「大川越市」誕生への歩み

当初、川越市は十一村の合併を試案として県に提出。これを受けて県は、大井村を除く十村合併とした県試案の発表によって推進が図られることになりました。しかし、市が合併に対し積極的な意欲を持つことに比べ、隣村では合併に対して静観する姿勢があり、中には反対の意見もありました。これは、合併による効果が予測不明なこと、市の政治的紛争や財政的赤字への不安、近代化による風俗の悪化、感情的反発などが理由になっていました。合併自体は恵まれた条件を持ちながらもそれらの生活圏を形成する自治体がいっしょになるのは、決して容易なことではありません。特に力の大きな村は、自負もあり、独自路線を歩むという考え方を持つていました。

もちろん、合併について賛成、反対それぞれが村を愛する気持からの行動であったと思方を持っていました。

さて、市政懇談会で頂いたご意見を紹介します。

[提案要旨]

兵庫県南部地震では大きな被害がありました、川越市の防災対策はどうなっていますか。

[お答え]

本年1月17日未明に発生した兵庫県南部地震は死者5,500人を超す大きな被害をもたらし、今までの防災対策のあり方に多くの教訓を残しました。

市長への提案から No.20



川越市長
舟橋功一

大地震に備えて防災用品セットを全世帯に配付します

市政懇談会で頂いたご意見を紹介します。

[提案要旨]

兵庫県南部地震では大きな被害がありました、川越市の防災対策はどうなっていますか。

[お答え]

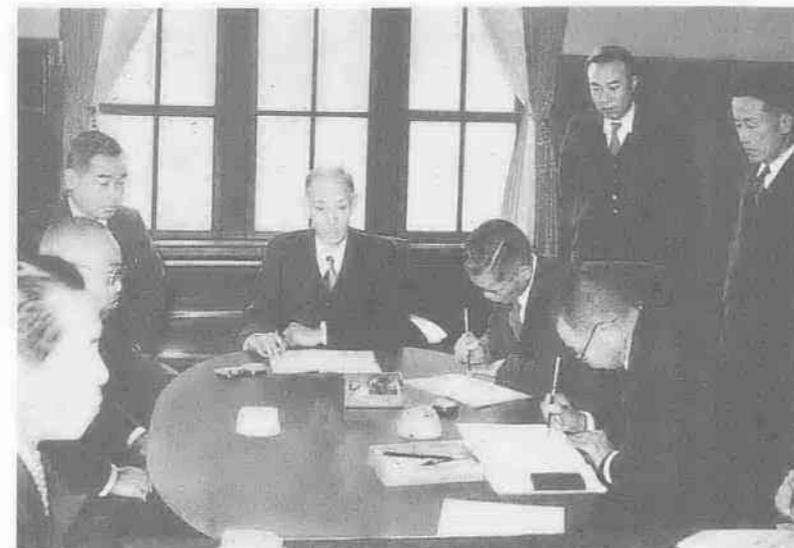
本年1月17日未明に発生した兵庫県南部地震は死者5,500人を超す大きな被害をもたらし、今までの防災対策のあり方に多くの教訓を残しました。

本市では、これまで防災対策について意欲的に取り組んできました。総合防災訓練をはじめとして、市民の皆様に的確な災害情報を伝達する防災行政無線の整備(市内284か所にスピーカーを設置)、防災啓発事業を推進してきました。また、高崎市との相互応援協定や川越市医師会との医療応援協定、市内ヘリコプター2社との優先利用協定、医薬品・冷凍食品・米穀の優先供給協定など、各機関と協力して対応する体制も整備しました。

この阪神・淡路大震災を契機に、本市ではさらに総合的な見地から見直しの作業を進めています。具体的には、防災施設のいっそうの充実を図るため、深井戸や備蓄品保管庫の増設、災害備蓄品の充実、自主防災組織結成の促進、避難場所の見直しと追加などがあります。

以上のような諸施策とともに、市民の皆様にも災害に対する備えと防災に対する意識を高めていただくため、防災用品セット(非常持ち出し袋・携帯飲料水容器・防災パンフレット)を全世帯に無料で配付します。来年早々、各自治会にお願いして配付したいと考えています。

今後も、防災対策のよりいっそうの充実を目指していきますので、市民の皆様のご協力をお願いします。



昭和30年1月26日に行われた川越市と8村の合併調印



昭和30年3月12日に行われた川越市と大東村の合併調印

昭和三十年四月一日、川越市と九村の合併記念式典が県立川越高等学校の講堂で行われました。さまざまな課題を克服し、到達した川越市と隣村の大合併の背景には、有利な制度的、歴史的、社会的事情があり、県の指導、川越市と九村の指導層の大きな努力と協力がありました。

しかし、将来の総合的発展の大きな可能性

われます。そこで主導的立場の川越市は合併によって共存共栄の新しい郷土を建設し、飛躍的発展を期するため、役場・職員・議員・委員・税金・保険・消防・上下水道・土木・産業・教育・福祉・交通・衛生・財産などについて、それぞれ方針を示し、旧市域・新市域の区別がないこととする条件を提示しました。

入間郡の四十四町村で構成される行政支会(任意団体)のうち、後に合併する九村は「中部行政支会」として大きな役割を果たし、さらには、周囲から合併が進むにつれ、川越アロックは必然的に一市九村合併という形で具體的な姿を現し始めました。こうして、明治維新以来、行政区域によって隔てられていた周辺農村との社会的、経済的な結びつきが復活したこと、自然なことであったとも考えられます。

昭和三十年四月一日、川越市と九村の合併記念式典が県立川越高等学校の講堂で行われました。さまざまな課題を克服し、到達した川越市と隣村の大合併の背景には、有利な制度的、歴史的、社会的事情があり、県の指導、川越市と九村の指導層の大きな努力と協力がありました。

しかし、将来の総合的発展の大きな可能性

人口が三倍になりました（四十年の軌跡）

昭和三十年四月一日、川越市と九村の合併記念式典が県立川越高等学校の講堂で行われました。さまざまな課題を克服し、到達した川越市と隣村の大合併の背景には、有利な制度的、歴史的、社会的事情があり、県の指導、川越市と九村の指導層の大きな努力と協力がありました。

しかし、将来の総合的発展の大きな可能性

未来へ向かう私たちの郷土

川越社会のあり方が関係し、その評価は今後の課題である」としています。

隣村との合併によって川越市の面積は、およそ六倍になり、ほぼ現在の市域を形成。人口はおよそ二倍になり、いっきに十万人を超えた。大合併から四十年を経過した平成七年の人口は、さらに当時のおよそ三倍になります。また、各種の産業振興が図られ、交通

の利便性などから、市勢は順調に向上している

時代の流れに対して独自のペースで歩んだ川越市は、首都圏に位置しながらも情緒ある現在のまちをはぐくみ、観光に多くの方が訪れるほか、テレビや情報誌などに紹介される機会も多く、伝統的な建物が並ぶ趣のあるまちとして知られるようになりました。

シルバー人材センター・シルバーガイドの会が、12月3日(日)、午前10時～午後3時に市内の名所、史跡を無料案内します。希望者は、当日の午前10時に「本丸御殿前」か「時の鐘前」でお申し込みください。

問い合わせ：シルバー人材センター 022-207-5

第14回川越市民コンサート・読売日本交響楽団演奏会

日 時	12月3日(日) 午後1時30分開場・午後2時開演
会 場	川越市市民会館
入場料	全席指定 A席 25-5445円 B席 24-1220円
音楽会	22-0859円
午前9時～午後4時	午前9時～午後5時
トレーイング室	午前9時～午後5時
体育館使用料	午前9時～午後4時
個人使用料	午前9時～午後5時
中学生以下の持観料	午前9時～午後4時
入館料 (市内在住)	午前9時～午後4時

川越市立博物館	22-53999	午前9時～午後5時	入館料
藏造り資料館	25-4287	午後4時30分まで	
本丸御殿	24-6015	午前11時～午後4時	
こどもの城	25-7288	午前11時～午後3時	
農業ふれあいセンター	26-6551	午前9時～午後9時	プラネタリウム観覧料
東後楽会館	24-3366	午前9時～午後4時	多目的ホール使用料
西後楽会館	32-6177	午前10時～午後3時	(個人利用のみ)
		入浴は午前10時～午後4時	

市民の日・関連行事のお知らせ

市民の日(12月1日(金)、12月の第1日曜日(12月3日(日))に無料の施設

セーレム市を訪ねて



川越市長

舟橋 功一

川越市姉妹都市
交流委員会代表
せきゆうし やまとひろ
関谷 芳弘

来年はセーレム市から訪問団

今回参加した方々の多くは、海外は初めてと聞いていたのですが、皆さん積極的に行動していただき、すばらしい交流になりました。食事会のときも、日本人だけが集まってしまうこともなく、セーレム市の方々と自然に打ち解け、話し合っている姿が印象に残っています。セーレム市からも今回の訪問が大成功であったと聞いています。

日程は未定ですが、来年、セーレム市からの訪問団が川越を訪ることになっています。当委員会としても、多くの市民の皆さんに参加してもらえるような企画を考えたいと思います。そのときは、多くの皆さんに積極的にご参加いただけようお願いします。



参加者の声から

朝倉かづ子さん（54歳・下広谷）

今回の旅では、ホームビジットを含め、アメリカ人のボランティア精神と広い心を感じることができました。ボミや空き缶が落ちていないことにも感心しました。姉妹都市セーレム市に親しみを感じました。

岩永一太郎さん（63歳・上戸新町）

セーレム市は治安がよく、安心して歩けるまちでした。ホームビジットでは退職後に始めた英会話で、片言ながら意思表示ができました。パソコン通信をしているので、インターネットで交流しようと思っています。

鵜坂津矢子さん（47歳・松江町一）

セーレム市の人々は、純朴で親切な人が多いと感じました。空港まで見送ってもらえたのも姉妹都市なればこそなのでしょうね。シルバーガイドをしているので、英会話を勉強しようと思っています。

白石政子さん（48歳・笠幡）

初めての海外旅行を、姉妹都市で二百ペースント楽しみました。バスから見たどこまでも広がる大地と透明な空気が印象的でした。ホームビジットをしたお宅も含め、もう一度同じコースをたどってみたいと思います。



姉妹都市提携十周年
川越市がセーレム市と姉妹都市になつたのは、昭和六十一年八月一日。十周年に当たるのは来年ですが、両市の話し合いにより、交流十年目に入る今と来年の二年間、両市の市民が相互に訪問しあつて十周年のお祝いとすることになりました。

オレゴンの大自然に感動
オレゴンの大地と、セーレム市の人々は、川越からの訪問者に数多くの思い出を残してくれました。

九月二十九日から十月五日まで、川越市と川越市姉妹都市交流委員会が共催する訪問団が、姉妹都市セーレム市（米国・オレゴン州）を訪問。参加した皆さん、短い期間ではありましたがあつたが、姉妹都市での交流を楽しんでいました。

川越市提携十周年

川越市がセーレム市と姉妹都市になつたのは、昭和六十一年八月一日。十周年に当たるのは来年ですが、両市の話し合いにより、交流十年目に入る今と来年の二年間、両市の市民が相互に訪問しあつて十周年のお祝いとすることになりました。

オレゴンの大自然に感動
九月二十九日、セーレム市に到着した一行は、市役所内で行われた記念式典に参加。ここで、セーレム市のロジャー・ガーテンリッヂ市長から「今日から一週間を、川越市との友好週間とする」との宣言を受けました。

二日目と三日目は、オレゴンの自然を味わつてもらおうとセーレム市が企画してくれたバスツアーに参加。行き四日目はセーレム市に戻り、夕方、参加者が数人ずつに分かれて十二家庭にホームビジット（家庭訪問）をしました。アメリカ人の家庭に招かれるのを味わつてもらおうとセーレム市が企画してくれたバスツアーに参加。行き

貴重な経験、ホームビジット

五日目は、グループ別の観察。あるグループは、セーレム市の老人施設のボランティア活動や図書館でのコンピューター利用などを見学しました。

朝倉かづ子さん（54歳・下広谷）

今回の旅では、ホームビジットを含め、アメリカ人のボランティア精神と広い心を感じることができました。ボミや空き缶が落ちていないことにも感心しました。姉妹都市セーレム市に親しみを感じました。

岩永一太郎さん（63歳・上戸新町）

セーレム市は治安がよく、安心して歩けるまちでした。ホームビジットでは退職後に始めた英会話で、片言ながら意思表示ができました。パソコン通信をしているので、インターネットで交流しようと思っています。

鵜坂津矢子さん（47歳・松江町一）

セーレム市の人々は、純朴で親切な人が多いと感じました。空港まで見送ってもらえたのも姉妹都市なればこそなのでしょうね。シルバーガイドをしているので、英会話を勉強しようと思っています。

白石政子さん（48歳・笠幡）

初めての海外旅行を、姉妹都市で二百ペースント楽しみました。バスから見たどこまでも広がる大地と透明な空気が印象的でした。ホームビジットをしたお宅も含め、もう一度同じコースをたどってみたいと思います。

その後開かれた「さよならパーティー」で、自費参加の舟橋浩子市長夫人による日本舞踊と地元の高校生のダンスが披露され、交流に花を添えました。声が聞かれました。

先は、オレゴン州中部の高原地帯と北部のフッド山です。オレゴンの広大な大地を走るバスは、林間の直線の道を抜け、低木の丘陵をうねりながら進んで行きました。時折降つてくる小雨が虹をかけ、車窓から眺めにいつそうの彩りを添えていました。

今年は、川越市民がセーレム市を訪問する年です。

訪問団は、総勢三千六人。川越市長と市議会議長ほか市職員で構成する使節団と川越市姉妹都市交流委員会委員、同委員会が募集した一般市民二十人で構成する市民号の皆さんです。

先人のあゆみ 17

伊藤泰吉（一八九九—一九六五）

戦後の混乱期、川越市の公選による初代市長として人心の安定を掲げ、市勢の躍進に心血を注いだ伊藤泰吉。持ち前の努力によって、隣接する九村との合併と都市近代化の諸策など、市の発展に大きな足跡を残しました。

伊藤泰吉は、明治三十二年（一八九九）、十二月十七日川越城富士見櫓跡（郭町二）にある御嶽神社の神職の家に生まれました。大正八年三月、県立川越中学校を卒業。同年九月、第一高等学校文科甲類に入学しました。同一年四月、東京帝国大学法学部政治学科入学。同十四年、卒業と共に官吏の道を選び、朝鮮総督府司法勅任事務官としてエリート官僚の道を歩みました。昭和十七年、早くも総督府の専売局長となり、同十九年には通信局長に就任。そして、勳三等瑞宝章を受けました。

伊藤泰吉は、明治三十二年（一八九九）、十二月十七日川越城富士見櫓跡（郭町二）にある御嶽神社の神職の家に生まれました。大正八年三月、県立川越中学校を卒業。同年九月、第一高等学校文科甲類に入学しました。同一年四月、東京帝国大学法学部政治学科入学。同十四年、卒業と共に官吏の道を選び、朝鮮総督府司法勅任事務官としてエリート官僚の道を歩みました。昭和十七年、早くも総督府の専売局長となり、同十九年には通信局長に就任。そして、勳三等瑞宝章を受けました。

昭和二十二年四月五日、第一回の市長選挙に当選。初の公選市長に就任しました。在任中、市政発展に大きく貢献。最も大きな仕事としては、九村合併の実現を果たしました。

そのころ、川越市には隣接する九村（芳野、古谷、南古谷、高階、福原、大東、霞ヶ関、名細、山田）がいました。農工併進の政策を進めている市では、農村との合併が必要になっていました。さらに、や道路の整備、工業住宅団地の造成など、広域的な対応が急務でした。

市議会でも一丸となり、九村への働きかけをしました。周辺の村でも合併の動きが見られました。しかし、中には近代化した川越市と合併することで、青年や婦人が都市化して風紀が悪くなるという

心に共鳴する優しい響きを奏でる弦楽器・マンドリン。

その音色に魅了された土井久雄さん（87歳・砂新田）のお住まいを訪ねました。

マンドリンを始めたのは、十年前、川越ロリエーナマン

ドリンクラブに入会したのが、きっかけです。ハーモニーの

本の弦を上下に小刻みにたたかれていました。平成七年は、この合併から四十年目に当たります。

昭和二十一年十月から連続五期、市として急速な発展を遂げることになりました。平成七年は、この合併から四十年目に当たります。

ね上がりました。そして、近代都

市として急速な発展を遂げることになりました。平成七年は、この合併から四十年目に当たります。

昭和四十一年七月三十日、病のため六十歳の生涯を閉じました。

なお、市長在職中は埼玉県市長会

会長や全国市長会副会長を歴任。

昭和四十年八月三日、川越市から

の名誉市民の称号（第一号）が贈

られました。

■「先人のあゆみ17」は「川越の人物誌」（川越市教育委員会発行）

を参考にして広報課でまとめたもの

です。

「いざ、取りかかつてみると難しい。最初はできるところから弾いていました」と言います。クラブでできなかつた個所を、家に帰って繰り返し練習。どう弾いたらきれいに弾けるかに没頭しました。

今も難しい曲目に挑戦し、技術の向上に取り組んでいま

す。好きな曲は歯切れのあるドイツの「ワルツ」や組曲「秋の印象」「四里山の月」などがマンドリンの掛け合いでよ

く合うそうです。

クラブのメンバーは十五人。そのうち、男性は五人。土井さんは最高齢の奏者です。奥さんが隣で「いつまでも若い感じがしていいですね」とほほえみます。

東京は本所の小梅町の生まれ。六人兄弟の三番目。小学生のころ、兄は大学のマンドリンクラブに所属。「兄のマンドリンには触れませんでした。音の感覚はこの時分に養えたと思う」と懐かしむ土井さん。クラブでは、第三回定期演奏会を目指しています。

「日ごろ練習した成果を演奏

会で聞いてもらうのが楽しみです。気合いが入ります」と胸を膨らませていました。

りきりきシルバ

34

合奏の味わい、多くの人に

心に共鳴する優しい響きを奏でる弦楽器・マンドリン。

その音色に魅了された土井久

雄さん（87歳・砂新田）のお

住まいを訪ねました。

マンドリンを始めたのは、

十年前、川越ロリエーナマン

ドリンクラブに入会したのが、

きっかけです。ハーモニーの

本の弦を上下に小刻みにたたかれていました。平成七年は、この合併から四十年目に当たります。

ね上がりました。そして、近代都

市として急速な発展を遂げることになりました。平成七年は、この合併から四十年目に当たります。

昭和四十一年七月三十日、病のため六十歳の生涯を閉じました。

なお、市長在職中は埼玉県市長会

会長や全国市長会副会長を歴任。

昭和四十年八月三日、川越市から

の名誉市民の称号（第一号）が贈

られました。

■「先人のあゆみ17」は「川越の人物誌」（川越市教育委員会発行）

を参考にして広報課でまとめたもの

です。

みんなの作文

ネコのタンとミヤア

川越西小学校二年

佐々木遼

おしゃべり倶楽部80 気になる木



短歌

蘆笛短歌会

ようやくに復興始まりし被災地に子らかたまりてボール蹴り合う

女手に子等育てむとちかひしが子に支へられ傘寿となりぬ

久びさに晴れたる朝野路ゆけば雲雀の轡り天にきこゆる

病院のタベの廊下に配膳のナースらの声せわしくひびく

風邪に臥す待めなき身の昼長し今日七十三歳の誕生日迎ふ

逆らひし吾を見つめる母の顔浮かびて枕し娘と諍へば

春あらしやみて降る雨に海棠の紅の蕾ほぐれ咲き出づ

蟠り捨てよと己にいきかせ朝露光る川土手歩む

暖かき一日を選び麻痺の夫を車椅子に乗せ桜見に行く

雨あとの朝もやこむるわが庭に雉鳩の声くもりて鳴く

母逝きて三年の忌の近づけり暑き日ざしに白木槿咲く

峰に湧き峰に隠れる白雲を飽かず眺める榛名の湖畔

遠雷となりて木々の葉には雲間より射す陽の光りつつ

今日こそは花より団子母子ともに喜々として喰むふれあい祭り

負けて並ぶこの球児等に我ら皆ひときわ高き拍手おくりぬ

手振りては電車見送る弟の生れて日浅き幼とわれと

寺尾

寺尾

寺尾

寺尾

砂新田

飯野喜代子

飯野まさき

郭町二

石黒光子

三久保町

岩崎輝子

山田

岡野とよ

元町一

笠原春子

新宿町一

斎田ナミ

元町一

宮崎美与子

三久保町

茂木さだ江

吉野清子

吉野清子

もしもしコーナー

Q

事業をしていると、

A 「償却資産」とは、土地や家屋のように固定資産税の課税対象の一つで、事業に使用する機械や備品などを事業用資産のこと。飲食店ならちゅう房設備、冷蔵庫など、理・美容室では理・美容

などが該当。業種共通では駐車場等の舗装、エアコン、レンジスターなどがあります。

このような事業用資産を持つ人は、名称・取得年月・取扱価格・耐用年数など、毎年一月一日現在の所有状況を申告することになっています。

減価償却済みの資産も使用していれば申告します。税率は一・四%。課税標準額（減価

償却後の価格）の合計が百五十万円未満なら税金はかかりません。申告期限は、毎年一月末日です。申告していない方は、ご連絡ください。

問い合わせ：資産税課庶務係



旅の空から

115



一族箱根旅行

井上すみ子（65歳・六軒町1）

私たち一族は、箱根へ出かけました。この旅行は、4人の娘を嫁がせたとき「孫が生まれたらいっしょに旅行をしたい」という夢の実現です。

一行は、わたし・妹・弟・娘たちそれぞれのカップルと孫が7人で総勢20人の団体になりました。マイクロバスに乳母車を3台積んでぎやかな出発になりました。

天気もよく高速道路から眺める東京のビルの林にも心がウキウキ。心配していた大涌谷も晴れてきて孫たちもよく歩きました。仙石原での夕食のときは、食堂の窓辺に4匹の子グヌキがチョロチョロとやってきて、孫とタヌキの競演です。

翌日は、芦ノ湖を海賊船で元箱根へ渡り、潮風も心地よくみんな大喜び。彫刻の森では緑の空気を胸いっぱい吸って別世界にいるような気がしました。

私は、戦時に学生時代を過ごし、修学旅行に行けませんでした。平和で健康で旅行できたことを本当に幸せに思います。私以上に満足した人は、主人でした。では、またあすから的人生を出発します。

イラストコーナー



なか

む

た

恵

子

(26

歳

・

中原

町

1)



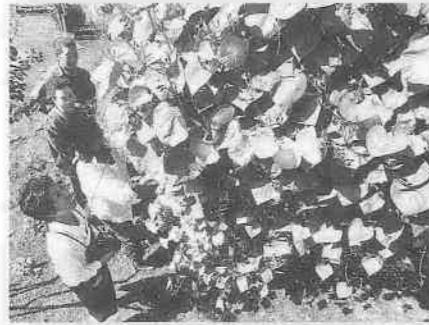
深まる美術の秋

第44回川越市美術展が10月25日から29日の5日間、市民会館と市立図書館で開催されました。会場には日本画、洋画・彫塑、工芸、書、写真の5部門804点（応募合計821点）が並び、訪れた方は、黙々と鑑賞したり、作品を前にそれぞれ感想を語り合ったりさまざま。深まる秋のひとときを美術鑑賞で過ごしていました。



まちをきれいに

私たちの住むまちを美しくするためのクリーン川越市民運動（ごみゼロ運動）。10月29日、今年2回目の運動が市内各地の道路や公園などで行われました。休日にもかかわらず朝早くから多くの方々が参加して、収集されたごみや空き缶はおよそ110トン。住まいのまちづくりのためには、皆さんの日ごろからの協力が必要です。



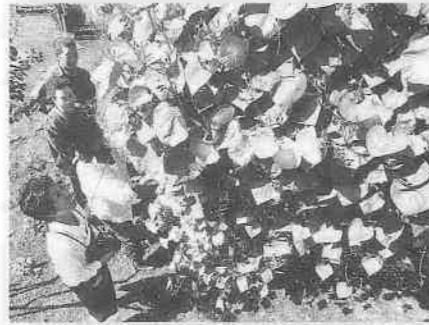
エベレストママさんに表彰

7大陸最高峰を征服するなど女性登山家として活躍を続ける田部井淳子さん（56歳・砂新田）が、内閣総理大臣表彰を受賞しました。世界女性会議がアジアで初めて開催されたのを記念し、男女共同参画社会づくりの功労者として表彰されたもの。「好きな山に登ってきて表彰され、とてもうれしい」と受賞の喜びを表していました。



みどりをどうぞ

まちにもっと緑を。10月22日、川越駅西口広場と御伊勢塚公園で「苗木の無料プレゼント」を開催。これは、都市緑化月間（10月）と9村合併40周年を記念して行われたもの。西口広場では、舟橋功一川越市長がひとりひとりにシャクナゲやリンゴなどの苗木を手渡しました。両会場とも用意した700本の苗木が瞬く間に“完売”。



季節外れのヘブンリーブルー

秋空の下、大輪が咲き誇る真っ青な朝顔。島田正義さん（52歳・笠幡）の庭では、10月下旬というのに西洋朝顔のヘブンリーブルーが、毎朝100以上の花を開かせました。5月に種をまいたものの、夏に咲かずやきもきさせていた朝顔。「あきらめていたのに、こんなにきれいな花が咲き、感激です」と、妻の宣子さん（51歳）。



深まる美術の秋

第44回川越市美術展が10月25日から29日の5日間、市民会館と市立図書館で開催されました。会場には日本画、洋画・彫塑、工芸、書、写真の5部門804点（応募合計821点）が並び、訪れた方は、黙々と鑑賞したり、作品を前にそれぞれ感想を語り合ったりさまざま。深まる秋のひとときを美術鑑賞で過ごしていました。



まちをきれいに

私たちの住むまちを美しくするためのクリーン川越市民運動（ごみゼロ運動）。10月29日、今年2回目の運動が市内各地の道路や公園などで行われました。休日にもかかわらず朝早くから多くの方々が参加して、収集されたごみや空き缶はおよそ110トン。住まいのまちづくりのためには、皆さんの日ごろからの協力が必要です。

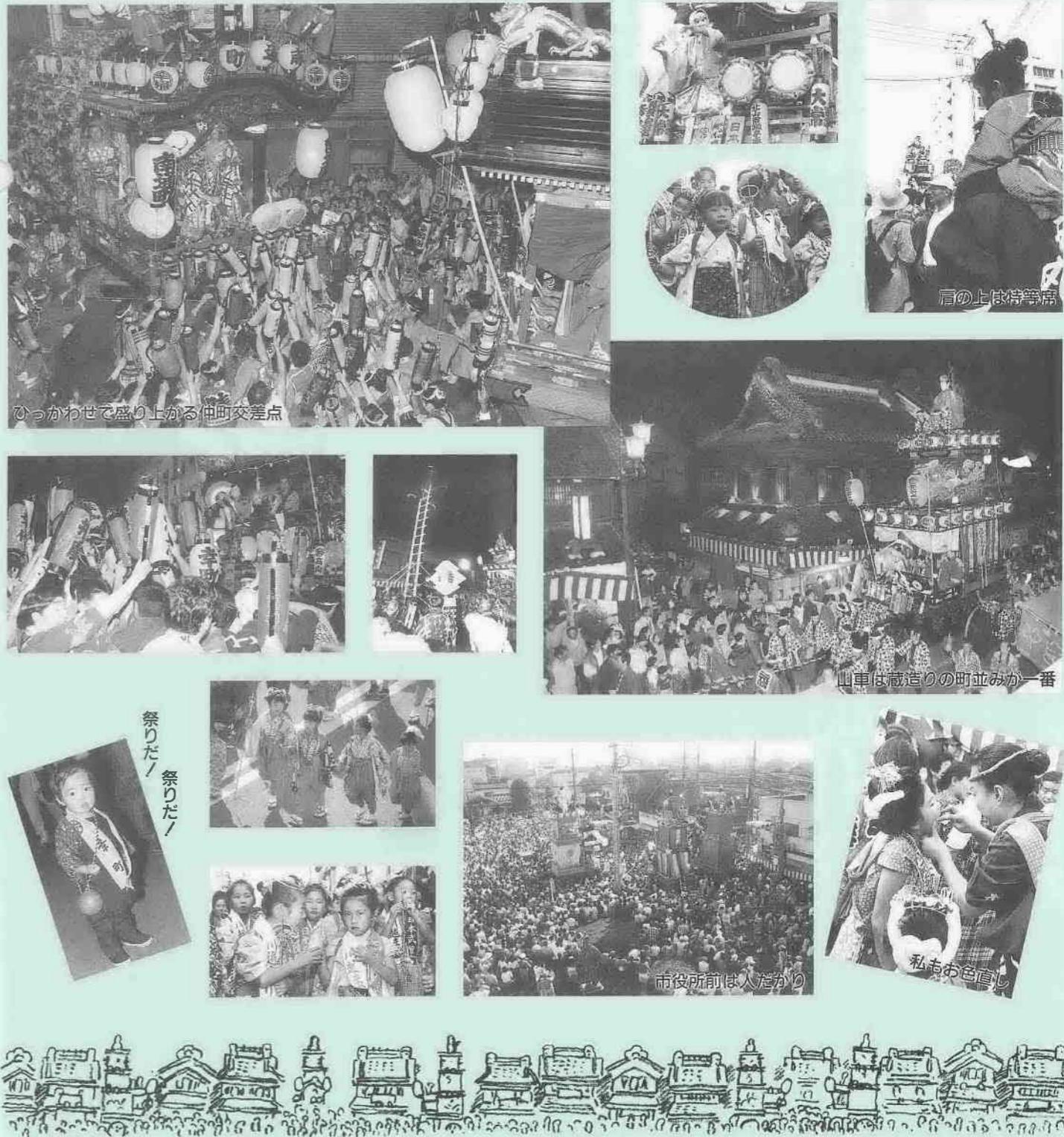
まちのできごと トーキー 109 パレット

川越市の面積は109.18km²



川越まつり'95

けんらん豪華な山車が蔵のまちを練り歩き、江戸情緒を醸す川越まつり。今年は、35年ぶりに岸町2丁目の山車が加わり総勢16台の山車がまちに練り出しました。10月14日・15日の両日でおよそ五十万人の人出。市内は、人、人、人。ちょうどちんに灯がともり、ひっかわせは熱気を増し、たくさんの歓声が加わり、祭りは最高潮に。小江戸川越が祭り一色の2日間になりました。



和紙にたくして

柿の実

文 はり絵
新井紀子
新井時子

20



いくつかの実を残した古く大きな柿の木。
くつきりと姿を見せた遠い山々と
葉を落とした木々が描く秋の絵。
近づいて見上げると
枝と枝の間を雲が流れ、
自然の構図に私は心のスケッチブックを開く。
落ちたら消えてしまいそうな季節に
色づく実は私を励ましてくれる。
かけ足で冬が訪れるその冷たい風の吹ぐ日。
しっかりとしがみつく柿の実には、
いつまでも生きようとする命が
宿っているような気がする。

どぶろく

編集日記

11月に入り、急に寒くなってきました。強い風におおられて舞い飛ぶ赤や黄の葉は美しいものですが、冷たい雨にぬれて街路に散らばっている風情は、痛々しい感じがします▶落ちた葉を掃き寄せ、たき火にし、サツマイモを焼いてもらった思い出があります。今は空き地も木々も少なくなり、歌のようにできなくなりましたが……。落ち葉を見て文学をたしなむか、食欲を考えるか、旅ごころを持つか、秋は人にいろいろな思いを起こさせる季節です▶広報川越では、皆さんの旅日記を募集しています。旅先の出来事や旅情などを400字程度の文章にして、写真を添えてお寄せください。

表紙の写真(氷川神社・宮下町2)



TV わが街川越 番組ガイド

- テレビ埼玉 火曜日 午後5時30分～・午後10時15分～
- 川越ケーブルテレビ 月～土曜日 午前11時20分～・午後5時20分～
午後7時20分～・午後10時20分～
日曜日 上記から午後5時20分～を除く

■一部変更になることがあります。あらかじめご了承ください。



「音の風景」から時の鐘

テレビ埼玉 (38ch)

11.14(火)	音の風景
11.21(火)	名刀展
11.28(火)	ナイスハートふれあいのスポーツ広場

川越ケーブルテレビ (15ch)

11.13㈪～	川越まつり
11.20㈪～	川越まつり
11.27㈪～	名刀展

音の風景

響き方や強弱、高低などの違いで、音は私たちにさまざまな印象を与えます。まちの中にあるたくさんの音も、それぞれ個性がいっぱい。音の情緒的な響きから、川越ならではの魅力を探ります。

名刀展

芸術的美しさを秘めた日本刀。11月14日(火)から市立博物館で行われる名刀展「刀と刀装具にみる日本の伝統美」。番組では、刀剣や刀装具の名品を紹介します。日本古来の伝統美を味わってみませんか。

ナイスハート ふれあいのスポーツ広場

「スポーツを通じて障害者と健常者が互いに助け合い、ふれあう場」と、11月18日(土)に川越市総合体育館で開かれる、このイベントの様子をお伝えします。玉入れや綱引きなどの競技が行われます。

■発行／平成7年11月10日（毎月10日・25日発行）

■発行人／川越市長 舟橋功一

■編集／川越市広報課 〒350 埼玉県川越市元町1-3-1 ☎0492-24-8811内線2132

■印刷／有青山印刷